

# 新山協ニュース

▲ 発行者 平田大六 ▲ 発行所 新潟県山岳協会  
〒951 新潟市下旭町109 鈴木敏雄方 TEL025-222-9548

## 佐渡の春山事情について

佐渡山岳会 関 雅志

最近は何にでも序列を付け  
たがる風潮があり、とくに山  
の関係に多く感じられます。  
みんな忙しいので安直に評価  
できる基準が必要で、それは  
それで結構と思っております  
が、ただ「〇〇の百名山」類  
には若干迷惑しております。  
何でも佐渡の金北山とかドン  
デン山とかが花の百名山に掲  
載の栄に浴したそうで、それ  
に付随して問題もおきてい  
るようです。

ここ近年、5月の島外より  
の入山が増加しております。  
募集の団体あり、愛好会のツ  
アーあり、小人数の山行あり  
です。まず特徴的に挙げられ  
るのが年齢構成で中高年と言  
うよりは高年齢層中心で女性が  
圧倒的です。今年我々が直接  
関係した2団体も、一つは大  
阪の山の会で、会員は千人い  
ても参加するのは60才以上の  
方々が主流。もう一つも関東  
地区の毎日新聞の募集ツアー  
で構成は何組かの中年夫婦を  
除けば似たようなものでした。

そして問題なのはこれらのス  
タンスに雪の山に登るとい  
意識がない事です。山行の目  
的は春の花にあり、それらは  
佐渡の場合、多く6000m  
10000mに分布しております。  
そしてコースはドンデン  
山より金北山への縦走がほと  
んどです。  
この時期の大佐渡山脈は標  
高千mを境に完全に異なっ  
ており、ドンデン山側ではす  
に春でも、金北山側はまだ雪  
に覆われております。その区  
域が上旬では5kmの長さか、  
下旬では1kmになるだけで、  
その間は夏道が完全にクロ  
ズされているとの状況には何  
等変わりがありません。もし  
て金北山直下には50m超の壁  
があり、足のすくんだ者をど  
うして上げるかに苦労してい  
ます。  
これらの現状を知らない山  
行計画も多いのではないかと  
感じております。もちろん前  
者の様に何カ月も前から情報  
交換を行い、万全を期してく

## 新年会案内

日時 1997年1月19日(日)  
12時開宴  
会場 長岡市柏町 東泉閣  
電話 0258-35-2046  
会費 7,000円  
申込 〒951  
新潟市下旭町109  
鈴木敏雄方  
新潟県山岳協会  
電話 025-222-9548  
ハガキにて申込願います。

## 理事会開催案内

新年会に先立ち同会場にて、  
理事会を開催します。  
役員、理事、委員各位は10  
時30分までに参集願います。

でも参加者に聞いてみると主  
催者の言とは異なり「こんな  
山だとは思わなかった」「花  
の探勝会としか考えていなか  
た」「佐渡にこんな山がある  
とは」との認識が大半なのが  
実情です。

これらの状況の中で、5月  
に辛い事なきを得ましたが、  
あわや遭難、との危険な事  
態が発生いたしました。それ  
は東京の中高年パーティーが  
5月上旬、金北山直下にて雪  
の上で方向を見失い、午後2  
時には到着の予定が遅れて、  
日が暮れた7時過ぎにやっと  
辿り着きました。そして後日、  
彼らより「道標が無い・道が  
整備がされていない」等の指  
摘・要望がありました。

登山道整備に関しては、夏  
①縦走型にこだわらず、途中  
で戻るコース設定を勧める  
②縦走するならば、必ずガイド  
者を用意する  
③参加者に、この時期の山の



認識を正確なものにする  
(情報をとる)

④個人の縦走は極力止めても  
らう  
以上です。幸いドンデン山  
の大佐渡ロッジと当会は良好  
な関係にあり、必要な情報は  
お互いに交換をいたしており  
ますが、それだけで対処出来  
るとは思われません。越後の

諸先輩にとつては「なにを初  
歩的なことを」。との言もご  
ざいませうが、来年のシー  
ズンに向け、我々で出来る良  
い知恵がありましたら教えて  
ください。お願いいたします。  
○最後に県山協の皆様、春の  
花を是非見に来てください。  
5月下旬なら群生の花に満足  
して戴けるかと存じます。

御参考

問題を起こした会よりの文

大佐渡ロッジ様

先日の宿泊時には、お世話  
になりました。また、大塚御  
心配をおかけしまして、申し  
訳ありませんでした。

二ツ池までは順調に進んだ  
のですが、多量の残雪のため、  
あるいは目印の間隔が非常に  
離れているため道を見失い、  
金北山々頂直下でも雪のため  
にルートが分からず、藪こぎ  
して、やっとのことで頂上に  
達しました。時間をロスし、  
もう18時近くのことでした。

さて、リーダーとして、あ  
るいはパーティとして反省  
点を残したのは自戒するとし  
て、少し気になったことがあ  
りましたので一筆取ることに

くお願いしたく思います。  
(以下略)

「安達 太良山」

96中高原登山教室報告 ①

中高原登山委員長 坂井 厚

新潟県山岳協会主催、中高  
年登山委員会主管「中高原登  
山教室」を安達太良山(16  
99・6m)で、8月31日よ  
り9月1日までの2日間、実  
施しましたので報告します。

初めに

深化する高齢化社会の中、  
本年は残雪豊富なことによる  
滑落など、中高原の登山事故  
が相変わらず多い。  
生涯スポーツと云われて、  
百名山・二百名山登山等々こ  
だわりによるものや、夫婦な  
どの登山が増加する傾向の中、  
当委員会では少ない陣容で、  
未組織の一般登山者に対して  
事故防止の啓蒙を、登山教  
室を実施して5年を経過し、  
今年第6年目となりました。

実施まで

昨秋、高村光太郎の「智慧  
子抄」で有名な安達太良山を

1996・5・18  
世田谷区 秋元 忍

者が多いことを挙げ、リーダー  
は昨年同様1週間程前に責任  
をもって参加申し込み者に電話  
すること、その内容は持ち物、  
トレーニング等、申し込み者  
の状態を把握し、助言を与え、  
安心感を与えることにしまし  
た。

コースについて

種々に検討されたが変化の  
あるコースをということで、  
胎内岩經由安達太良山、沼の  
平經由下山とした。

8月11日より3日間程続い  
た、宮城県北部地震で火山活  
動の影響が、懸念されました  
が程なく治まりました。なお  
情報を注意深く掴み、推移を  
見守ることにした。

行動概要

8月31日(土)晴  
受付集合共に新潟市宮陸  
上競技場前として、比較的順  
調にゆき、予定時間より早く  
出発することが出来た。

車内では、車長からこの登  
山教室は、一般的な市民登山  
やツアーでないこと、そのう  
えでリーダーの指導であるこ  
とを、確り胸に刻み込んで欲  
しい旨を述べ、リーダーから

登山教室経験者が少なく初心





それぞれ自己紹介があった。中・高年登山事故の概要も述べた。沼尻の宿舎到着後、直ちに開校式を行う。

1 委員長挨拶、中・高年の登山事故防止のため登山教室を行うもので、一般的なツアーでないこと、新潟県教育委員会他6行政機関と笹

わがクラブ ㉓

一 峰 会

皆さん、こんにちは、一峰会です。我が会の発足は昭和55年8月11日です。8月8日

川スポーツ財団よりSSFスポーツエイド助成等後援を得、108名と多数になり、お断りが多くあった。事故なく運営したいと述べた。

2 リーダー紹介、サブリーダーで昨年比し女性性が2人減った。(つづく)

遠 藤 俊 一

から11日まで朝日連峰を縦走して、帰途ハンパキ脱ぎを新潟沼垂のたなか屋で行いました。その席上、会をつくろうとなり「一峰会」と命名うぶ声をあげました。この時の参加者が12名でした。

元をたどれば、昭和52年頃から、現上野会長を中心に五頭、飯豊、御神楽等を登っていた仲間が集まって、会として活動するようになったというところでしょうか。

その後、故藤島先生を顧問にお迎えし指導を受けながら、また新山協にも加盟させていただき、安全登山と自然愛護をモットーに活動をして来ました。

現在会員数は、男性23名、女性6名の合計29名です。うち夫婦での会員が3組あります。会員は、北越銀行の行員とそのOBが中心で、そこに知り合いの仲間が加わって構成されています。

メンバーは多士済々、会長の随筆、短歌の本の出版を始め、県展、二科展フォト部門入選連の芸術家や山荘を建てた者もおります。また、山の幸の料理は天下一品、山行の行き帰り料理の講習をする者もいます。

月一回の例会登山が会活動の中心で、「よき山に登り、うまき酒をのむ。」(久弥)を実行しています。

昨年の当会の活動を紹介し

1月は富士見の山行で鎌倉アルプスと天城山、2月は年間の行事計画と担当幹事の決定を兼ねての新年会、4月は雪割草の角田山、そして残雪と一等三角点の山の土埋山、5月からは黒姫三山登り、ま

ず5月は刈羽黒姫山、6月は青海黒姫山、7月は信州黒姫山と飯縄山、8月の夏山合宿は飯豊山でしたが、生憎の集中豪雨で中止となりました。

秋の紅葉見物は、9月の那須岳、10月の摩耶山と県外遠征を実施。そして11月は総会兼ねた納会を胎内で開催して一年を納めました。

わがクラブ ㉔

中 条 山 の 会

五 十 嵐 力

ご他聞にもれず、わが中条山の会も、高齢化の時代を迎え、創立(昭和34年)来のオールド会員が中心になって相應の活動を続けているのが現状。自慢出来るものと云えば毎週金曜日の例会が延々と今日も続いていることです。

かつては登山技術論など大見得を切った論客も、例会の雰囲気もガラリと変わってサロンのになり時には酒も出る落ちぶれよう。しかし山に対する情熱はすこぶる旺盛で、金と暇に任せ、山行範囲も全

国規模、個人的に海外に出掛ける者も出てきている現状。問題は、後継者の育成、当会では30年代後半から山岳少年団を結成して後継者養成に努めてきたのですが、進学就職と、都会に取られ帰郷青年の歩留まりが予想以上に低く

落胆、それでも現在少年団出身の若者が少数ながら会の行動派として活躍してくれているのが救い。

中条山の会の歴史は、飯豊連峰、奥胎内流域の開発と同時に始まった地域研究、一応は厳冬期まで含めて完成したのが第一期、第二期目は朝日連峰の厳冬期登山(未完)、近辺の山塊の厳冬期登山計画(これは完了)それ以降会員の社会的地位の向上? などで組織としての大規模な山行が出来にくくなり、高齢化時代を迎えたと云えるようです。

近年、ご承知の通りわが中条町では、櫛形山脈登山コース整備事業に取り組み、山麓の開発など進めておりますが、山と自然を間違った開発から守る、自然保護に努力しております。



幸いに、楡形山脈の自然は心ない登山者に荒らされず、清楚さを保っています。わが山の会のホームグラウンド、小さな山脈ですが、魅力もいっぱいあります。

現在、わが会の平常活動は毎週の例会で、次ぎの山行を

### 今年の長野 遭難20年間で最悪 7割が40歳以上

長野県内でことし発生した山岳遭難事故が10月27日現在で116件となり、過去20年間で最多だった1977年の年間遭難件数と並び、年間件数では最悪となりそうなのが29日、長野県警地域課のまとめで分かった。遭難者の約70%を40歳以上が占めており、熟年登山急増が背景にあるとみられる。

決め、有志で出かけては情報交換を……の繰り返しです。名簿上の会員は多いのだが、実働会員は十数名、高齢者の入会希望者は多くありますが登山に対する思想心情が異なる者が多く、一応お断りしています。頭の痛い問題です。

最近では中高年登山者が登山者全体の約八割を占めているほか、旅行会社主催の30〜40人規模のツアー登山が増えてきているのが特徴。装備や準備不足による遭難が目立っており、地域課は中高年対象の登山教室を開催するほか、旅行業者やスポーツ店への協力要請で遭難防止を呼び掛ける方針だ。

### 南極だより 第9号

越冬隊員 片桐 一夫

(1996・10・27 ドーム基地 FAX 発)

日本では紅葉の秋、収穫の秋が終わりととなり、いよいよ

冬將軍の到来に備えを始めたというところでしょうか？ 皆様おかわりなくお過ごしのことと思います。

こちらドーム基地では、ついに白夜を迎えました。

先週の半ば頃だったようです。太陽はその頭をいくらかだしたまま南極点方向を右から左に移動していました。そのときの撮影は失敗に終わりましたが、金曜日から土曜日にかけての撮影は成功して14個の太陽がフィルムに記録されていました。すでに、日中は、太陽光線は非常に強く、サングラスがないとすぐ雪目になってしまいそうです。いよいよ気温も上昇してマイナス50℃台を上回るのではないのでしょうか？

ドーム越冬も終盤となり、きせわしさとともに仕事が慌ただしくなってきました。氷床掘削にくわえて近所の氷状観測の仕事が加わってきたからです。私はあな掘りに来た訳ですから、それに参加しません。せんがそれにしてもいろいろな仕事が増えつつあります。それに加えて掘削状況が思わしくなく、10月に入って進展して居ませんでした。新たなト

ラブルが続出しているからです。先週後半からそれがようやく解決して掘削再開となりました。今日現在の掘削深度は、2269mを記録しました。目標まで残り、231mなわけですがこの先、順調に行かずもなく、きわめて難しい数字を残しています。今月までのような2交替制は11月までしかとれなく、12月は帰還のための仕事が多くあり、多忙を極めそうです。

さて、今日は外気温がマイナス53・9℃でマスクなしで基地の周辺を歩くことが出来ました。もちろんサングラスは雪目防止で着用しました。オーロラの世界は遙か遠くへ行ってしまうましたが、その写真はたくさん撮れましたし、やはり、明るい世界は気分をも明るくしてくれるようです。自分の日本帰還が近づきつつあることも大きな要素でしょう。しかし、長い穴蔵生活と刺激に乏しい毎日、単調な毎日で頭がかなりボケているように思います。それに希薄な酸素、超乾燥、超低温で体力が大幅に低下しており、軟弱人間が完成しています。

やはり、人間はよい人脈を

持ち、緑豊かな環境に生活して四季折々の移り変わりを楽しめるよい趣味があり、仕事に張り合いを持てる生活がベストのようです。私の日本帰還後のリハビリテーションには、絶大なる御支援をお願いいたします。

ではまた！

## 登山用品専門店

— 信頼できるパートナー —

# 大新スポーツ

新潟市東堀6 ☎(025)222-3736